



【この活動の概要】

主な活動	海外大学との共同研究
関係機関	中国人民大学新聞与傳播学院(中国人民大学ジャーナリズム&コミュニケーション学院)
実施時期	2016年5月28日
参加者	小川博司 社会学部メディア専攻教授 黒田勇 社会学部メディア専攻教授 村田麻里子 社会学部メディア専攻教授 守如子 社会学部メディア専攻准教授 小笠原盛浩 社会学部メディア専攻准教授 溝口佑爾 社会学部メディア専攻助教 劉雪雁 社会学部メディア専攻准教授

【先生に直接聞いてみました】

Q はじめられた経緯は？

A 世界範囲でメディア業界とメディア教育がチャンスとチャレンジに直面している今日、メディア教育における日中間の相互理解を増進し、メディア教育と研究を推進するために何かできないものかと考え、中国人民大学新聞与傳播学院との「日中におけるメディアの発展とメディア教育に関する共同研究会」を企画しました。私が研修員として北京に滞在している間に実施することができました。

Q 具体的にどのような活動か？

A 本学の社会学部メディア専攻の教員 6 名が訪中し、研修員として北京滞在中の私と合流して、中国人民大学新聞与傳播学院で共同研究会を開催しました。研究会では、社会学部メディア専攻と中国人民大学新聞与傳播学院のメディア教育の歴史と現状、特徴を紹介し、メディアと災害情報、災害報道、被災地支援に関する研究や実践、日本の漫画やアニメの歴史や受容に関する研究発表とディスカッションを行いました。中国人民大学新聞与傳播学院の大学院生や、関西大学大学院出身の元留学生たちも共同研究会に参加しました。

Q 劉先生と中国人民大学との関係は？

中国人民大学新聞与傳播学院は、中国におけるジャーナリズム・メディア研究の重鎮の一つであり、以前から共同研究や会議などを通じて中国人民大学の先生たちと交流をしてきました。

Q 共同研究会の成果は？

A 教育、研究に関する相互理解を深めることができました。今回はまずは第一歩ですが、今後さらに交流を深める約束をしました。

Q 参加された他の先生や、中国人民大学の先生方の反応は？

参加した先生たちから、「メディア環境の変化の中で、今後のジャーナリズム・メディア研究の方向性と問題点などについて、双方が同じような問題意識や研究テーマを持っていることを確認しましたが、アプローチの方法が違って非常に興味深かった」、「中国人民大学側が多メディアを融合した先駆的な教育と研究が展開されていることが印象的だった」などの感想を述べました。中国人民大学の先生方は、「一回きりの研究会ではなく、今後もっと規模を拡大して交流を推進していきたい」ことを期待していました。

Q 苦労された点は？

A 苦労した点としては、日中両方の参加者はいずれも多忙なため、開催日の調整に手間取りました。また、工夫した点としては、発表のテーマです。双方の関心が高く、しかも社会的にも注目されている内容に設定したおかげで、活発なディスカッションが行われたと思います。

Q 費用は？

A 教員たちの渡航費は、個人研究費や外国出張補助費などから捻出しています。

Q 今後の展開は？

A 今後もこのような共同研究会を通じて交流をさらに深めていきたいと考えています。今回は双方の学生たちによる発表は行っていませんが、今後は学生同士が交流できるように工夫したいところです。また、今回は時間が限られていたため、学生たちが作った映像を上映する機会がなく残念でした。加えて、今後は韓国の大学とも同様な交流ができないかを検討しています。

【参考 URL】

[関西大学社会学部メディア専攻の Facebook 記事](#)





新闻学院与日本关西大学代表团 举行研讨会

(原创) 2016-05-31 人大新闻学院

RUC新闻与传播

5月28日下午，人大新闻学院师生与日本关西大学师生、人大外国语学院日语系师生共同在明德新闻楼611会议室举办了“媒体与传播教育”研讨会。会议围绕传媒教育面临的机遇与挑战展开了热烈的讨论。会议由新闻学院执行院长郭庆光教授主持，党委书记蔡雯教授做了主题演讲。

